

からきだの道によこそ

からきだの道は、多摩ニュータウン開発に伴う唐木田地区の新しいまちづくりの一環として、自然の丘陵地形を活かして整備された緑地です。緑地内には昔の唐木田の生活道路を一部活用した散策路があり、自然とふれあえるだけでなく、随所に古き良き名残を感じることができます。

唐木田・中沢周辺のまとまりのある緑は、多摩市の「みどりの拠点」の一つとして、良好な景観形成や生物多様性の確保などの役割を担っていますが、昔の唐木田の谷戸（まわりを小高い丘に囲まれた谷合）の面影も残しつつ、新しい街並みにとけこむように復元・整備されたからきだの道はとりわけ大切な存在です。

緑地面積：50,185㎡≒5ha
散策路距離：約1.8km
標高：最高160m、最低115m
所在地：多摩市唐木田1-50他
開園：平成9年4月11日

唐木田の歴史

遺跡調査の結果、この地域に集落を作って定住を始めたのは縄文時代と推測され、古代、中世、近世の生活と文化の跡も遺されています。近代以降もここに暮らす人々は農業を生業としていましたが、丘陵地形が大きな障壁となっていました。農業近代化の切り札としてのゴルフ場誘致が、その後、多摩ニュータウン開発へと発展することとなり、純朴な一農村に過ぎなかったこの一帯が、住宅だけでなく、教育や民間企業施設などが立地する複合市街地へと一変しました。

唐木田の地名の由来

諸説ありますが、「唐木田物語」（著者：横倉鋭之助氏）に一説として次のように紹介されています。

『唐から来た人達が開いた田畑、それがだんだん訛って「からきだ」と呼ばれるようになったそうである。』

唐木田地区の遺跡・旧地名

多摩ニュータウンの広大な丘陵地帯において約1000箇所の遺跡が発掘調査されています。このうち唐木田地区は45箇所発掘されました。

発掘エリア（数字は遺跡番号）

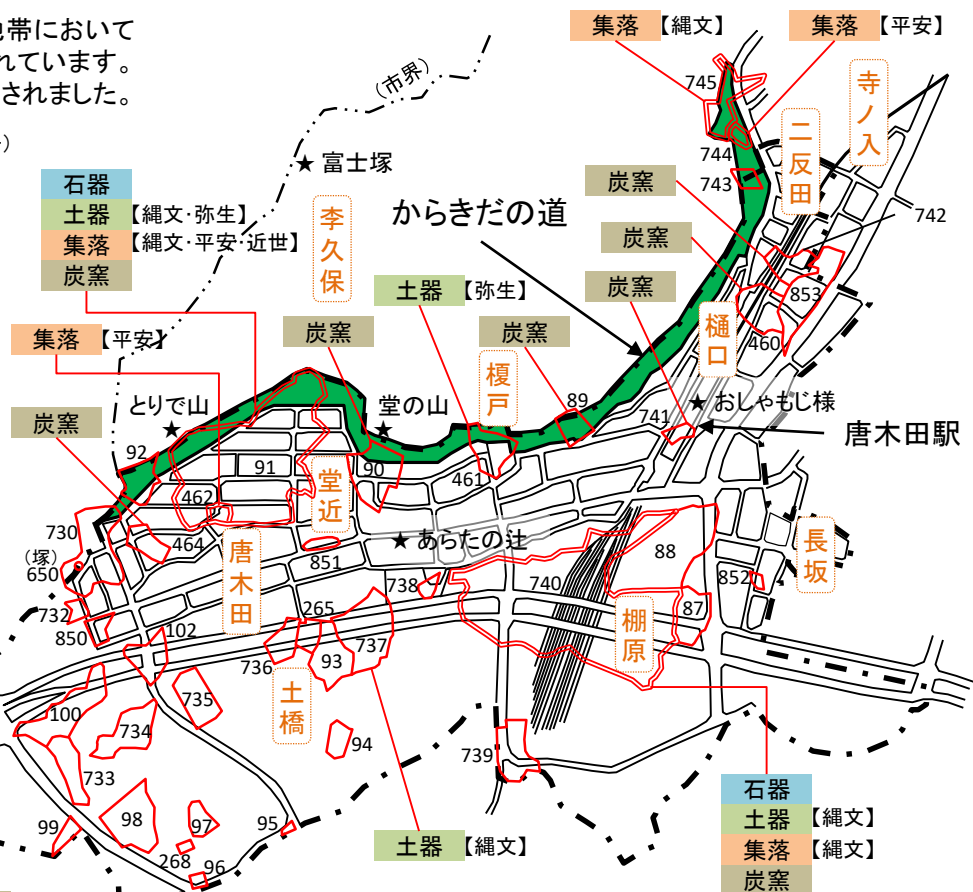
- 遺跡
- 遺跡（集落あり）

注目すべき遺跡

- 石器 石器出土【旧石器時代】
- 土器 土器出土【縄文～弥生】
- 集落 集落遺跡【縄文～近世】
- 炭窯 炭焼き窯跡【近世以降】

旧地名
昭和46年市制施行により多摩町から多摩市となる以前の地名

「唐木田」は風土記にもある古い地名ですが、現在も町名として残っています。

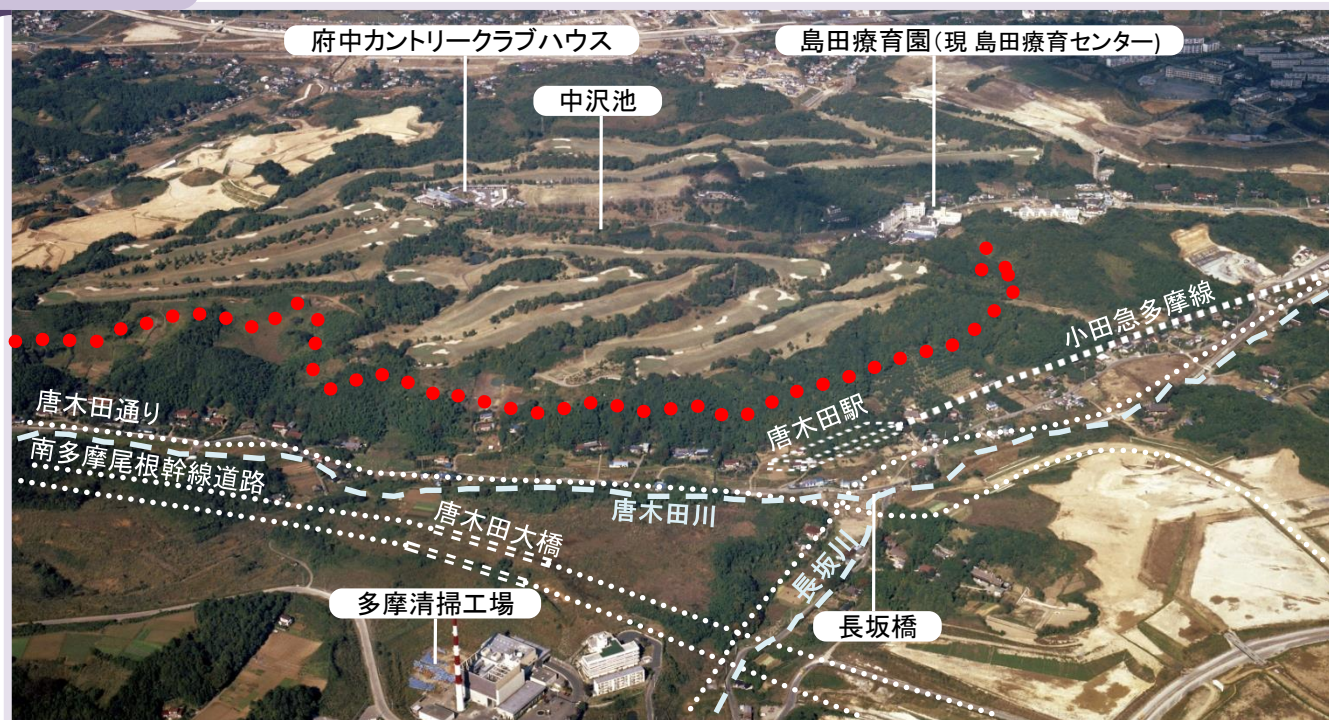


図は東京都遺跡地図情報や地形図などをもとに作成していますが、地図上の位置は大まかな位置となっています。

唐木田今昔

1980年頃
（昭和55年）

この頃、鶴牧地区と別所地区の一部が造成中。唐木田地区は昭和58年から5年間にわたり、山を崩し谷を埋める大規模な造成工事が行われほぼ平坦となり、からきだの道の予定地も宅造地との境界の大半が擁壁と造成法面に変貌しました。



UR都市機構寄贈・公益財団法人多摩市文化振興財団所蔵

2012年
（平成24年）



からきだの道の散策路

公益財団法人多摩市文化振興財団撮影・所蔵

一〇メモ①

造成工事前にあった唐木田川は乞田川の支流で、源流域の一つがからきだの道西端辺りと推測されます。造成時、長坂橋で合流する長坂川とともに暗渠化されましたが、鶴牧西公園の西入口付近で暗渠の端を見ることができます。

一〇メモ②

造成工事で遺跡も消滅しましたが、発掘された石器や土器などは多摩センター駅近くにある「東京都埋蔵文化財センター」に展示保管されています。

年	できごと
1959（昭和34）	府中カントリークラブ開場
1965（昭和40）	新住宅市街地開発法によるニュータウン都市計画決定
1966（昭和41）	多摩ニュータウンの新住宅市街地開発事業開始（2006年終了）
1973（昭和48）	多摩清掃工場完成（その後建替え、2002年に現在の多摩清掃工場完成）
1981（昭和56）	唐木田地区の遺跡発掘調査開始（1984年終了）
1983（昭和58）	唐木田地区の区画整理及び造成工事開始（1988年終了）
1990（平成2）	小田急多摩センター駅～唐木田駅間開通
1997（平成9）	「からきだの道」開園